図書館だより　12月号

令和４年12月６日発行　　川島中学校・高等学校図書館

クラス読書会感想文特集！Part2

図書館だより11月号で紹介したクラス読書会感想文続編です！読書会で使用したテキストは全体の一部分なので，１冊全部読んでみたい人は図書館へ来てくださいね。（感想文は抜粋しています。）

☆　ムーンライト・シャドウ　　吉本ばなな／著（「キッチン」所収　福武書店）

事故で恋人を同時に失ったさつきと柊（ひいらぎ）。不思議な女性うららの導きで，亡くなった恋人と再会し，これからの未来へと歩み出す，喪失と再生の物語。

誰かに出会い，出会ってから別れる。また会えるかもしれないし，二度と会えないかもしれない。この本は，そのことを恋の悲哀で表していて，涙が流れました。最近，私も亡くした人がいます。その人の最期の声は，年老いた自分じゃできないから代わりにやってほしいという頼み事でした。今でも，あの時の声や，兄が下に降りていく様子，ただ数分の出来事で，日常だったのに，今でもあの時もう少し話していたかったと後悔が頭を離れません。

心に響いた（残った）一文　手を振ってくれて，ありがとう。何度も何度も手を振ってくれたことありがとう。

５２ＨＲ　男子

大切な人を亡くした悲しみは，つらいと思うし，もし自分がその立場なら，絶対に引きずっているなと思います。頑張って立ち直ろうとしているのは簡単なことじゃないのに，それをやっているのはすごいなと思えました。本と自分を重ねながら読んでいたので，時々泣きそうになりました。もし，私がそうなら･･･と思うとつらくなったり，すごいなと思ったりしました。百年に一度見えるかどうかというところで，恋人と会えて良かったと思いました。

心に響いた（残った）一文　大切そうに手のひらからハンカチに包んだ。　　５２ＨＲ　女子

☆　魔法のプラハ　　俵万智／著（「ある日，カルカッタ」所収　新潮社）

「ベルリン発プラハ」という小説のファンになった人たちが，小説の舞台となったプラハを訪れる。美しい景色を見るために来たが，この国の人たちの誇り高さを知ることとなった。

プラハの風景を見た俵さんがどのように感じたのかが，俵さんの言葉で表されていて面白かったです。テレジンではユダヤ人の迫害の跡がはっきりと残っていてつらくなりました。テレジンの壁の子どもたちの絵には，胸をしめつけられるような気持ちにさせられます。それと同時に，絵を見た俵さんの言葉は美しく，そして，正確に僕の気持ちを表していました。世界には，現代に歴史を伝える建造物が数多く残っています。いつかそれらを少しでも多く見てみたいと思いました。*心に響いた（残った）一文　Here in Terezin, life is hell*　　６１ＨＲ　男子

私が心に響いた一文として選んだ文は，俵さんがシナゴーグの壁に抱いた感想です。ナチスに虐殺（ぎゃくさつ）されたプラハ市民の名前と生没年がびっしり記されている壁を，「厳かで美しい」と表したことに少し驚きました。（中略）また，ほとんど心理描写がないにも関わらず，おだやかで美しい景色やプラハ城に感動したことや，チェコ，プラハに好感を持ち，敬意さえあふれ出るというみずみずしい気持ちが伝わってきました。私もいつかチェコに行ってみたい，文化や芸術に触れ，愛国心を知り，その国のことが好きになればいいなと思いました。

心に響いた（残った）一文　なんと厳かで美しい方法だろうか。その誇りが，街の空気とともに，とても自然に体にしみてくる。　　６１ＨＲ　女子

☆　練習球　　あさのあつこ／著（「晩夏のプレイボール」所収　毎日新聞社）

過去にいじめをうけていた律と，けがをしてピッチャーから野手になった真郷が，たくさんのことを乗り越え，野球で甲子園を目指す。甲子園への切符をつかむため，練習球が２人の思いをつなぐ。

「一緒に野球をやろうや。」と真郷が律を誘った場面がとても印象に残っています。仲間がいると頑張ろうと思えるし，お互いに高め合っていけるのもいいと思いました。真郷の律に対する嫉妬心は共感できる部分もありました。仲間といっても負けたくないし悔しい気持ちがあって，でもそう嫉妬（しっと）する自分も嫌だと思ってしまうのは同じだと思いました。最後の大会で９回裏まで諦めないところはとてもかっこいいし，持ってきた練習球にはいろんな意味が込められているのだろうと感じました。

心に響いた（残った）一文　おれたちの夏はまだ終わっていない。　　５３ＨＲ　女子

小さな町から，高校最後の夏，公立高校がシード校を破り快進撃を見せる話に，まるで自分たちかのように思いました。地元の子だけを集め甲子園をめざす。僕には，小学・中学と一緒に野球をやってきた友達がいて，秋の大会でベスト４入りを果たしたので，負けてはいられないと思い，この冬，強くなろうと頑張っています。チーム力，そして甲子園に行くという気持ちが大切だなと思いました。

心に響いた（残った）一文　一緒に甲子園に行かないか。　　５３ＨＲ　男子

冬季休業中図書館開館日

１２月２６日～２８日（午前），１月６日

１２月１５日以降に借りた本の返却日は，１月１０日です。

一人何冊でも借りられます！

☆　スローカーブを、もう一球　　山際淳司／著　　角川書店

主人公川端は，どんな相手でも取れない，特別な１球を持っていた。勝者がいれば敗者もいる。甲子園に出場する主人公や周囲の心情がわかりやすく描かれた第８回日本ノンフィクション賞受賞作。

主人公の川端とは共感する部分が多く，仲良くなれそうな感じがしました。１番共感した一文は「なぜ野球を続けているのかと聞かれれば惰性（だせい）ですね，惰性」という川端の言葉です。惰性の意味を調べると習慣という文字が類義語として出てきました。つまり，彼にとって野球は「特別」ではなく「生活の一部」なのだろうと思いました。それを考えると，私が中学校の時にしていた剣道もいつの間にか「生活の一部」になっていたのかなとハッとさせられました。

心に響いた（残った）一文　なぜ，野球を続けているのかって聞かれれば惰性ですね，惰性。

５１ＨＲ　女子

川端の落ち着いて冷静な性格がとても印象に残りました。私がもし主人公の立場だったら，甲子園に出ることができてうれしすぎて舞い上がると思うけれど，この主人公はあまり感情が出ていないので，逆にその姿を新鮮に感じました。しかし，表には見せていないだけで，根性や芯の強さがあるのだと思います。甲子園で優勝することはできなかったけれど，「ヒーローにはなれない」という川端の言葉で心の奥の感情が見えたような気がしました。

心に響いた（残った）一文　川端は曲がりくねった道を歩いていきそうな自分を，感じることがある。

５１ＨＲ　女子

☆　首飾り　　モーパッサン／著（「世界文学大系」所収　河出書房 ほか）

安月給取りの家庭に生まれたかわいらしく愛くるしい“彼女”。文部省の小役人と結婚してからかなうはずのない夢を見ていたある日，夫が夜会の招待状を持って帰ってくる。ドレスを仕立て夜会に行こうとしても“彼女”の顔は晴れない･･･。

最後の最後のどんでん返しに驚かされました。夜会に行った帰りに友人に借りたダイヤの首飾りをなくしてしまい，あちこちに借金してやっと買った首飾りを返し，それから貧乏な暮らしをしなければいけなくなったあたりが，自業自得であるにもかかわらず不憫（ふびん）でした。そして最後の友人の一言，「あたしのはまがいものだったのよ。せいぜい500フランくらいのものだったのよ！」“彼女”と夫が借金までして買ったのは，36000フランのダイヤの首飾り･･･。先に友人に正直に話していたら，未来は変わったのではないかと思っています。

心に響いた（残った）一文　あたしのはまがいものだったのよ。　　６３ＨＲ　女子

この小説を読み，とても悲しくなりました。貧しい女は階級を気にしており，自分が金持ちになること，男にちやほやされることを夢見ていました。その時代の価値観，階級等があると思いますが，私にはあまり理解できませんでした。友人に借りた宝石をなくして借金までしてとても高いお金で宝石を返しますが，友人のはまがいもので，10年ほど今まで以上に貧乏な暮らしをしてやっと借金を返したのは，あまりにひどいと思いました。まがいものと高い宝石との区別がつかず，気づかなかったところも少し嫌な気持ちになりました。

心に響いた（残った）一文　あたしのはまがいものだったのよ。　　６３ＨＲ　女子

☆　ベラルーシの透明な夏　　佐藤しのぶ／著（「歌声は心をつなぐ」所収　東京書籍）

チェルノブイリの事故で被曝した子どもたちが療養生活をおくるサナトリウムでのコンサート。子どもたちの現実や，ふれあいを通して考えたことは。

この本を読んで，夢を持って希望を忘れてはいけないことを学びました。ベラルーシの子どもたちは原発事故に巻き込まれ，その後遺症で明日どうなるのかもわからないという状況でした。そんな中でも自分の運命を受け入れながら，その病と向き合い，将来に夢や希望を持ち続けていたという話を聞き，本当に強いなと思いました。ベラルーシの子どもたちが音楽で勇気づけられたように，私もこの本を読んでたくさんのことを学ぶことができました。私も将来のことで不安になることがありますが，マイナスに考えるのではなく，自分の夢に向かって今できることをやろうと思ったし，明るく前向きな考えをしようと思いました。

心に響いた（残った）一文　夢や希望がなければ生きていけない。　　６４ＨＲ　女子

音楽には誰かを救う，勇気を与えてくれる力があることがわかりました。主人公は広島の原爆の200倍とも400倍ともいわれる所に行き，人のためになるならと，できることを全力でやってなお，まだ，「自分の無力さとふがいなさにただ涙が止まらなかった。」と書かれているところにすごく感銘を受けました。私もほぼ毎日のように音楽を聞いていますが，これからはもっとその音楽の意味を理解して聞くようにしていきたいと思いました。

心に響いた（残った）一文　病気を克服するには医療と同じくらい，もしくはそれ以上に夢や希望が必要なんですよ。　　６４ＨＲ　男子

☆　ガク物語　　椎名誠／著　　集英社

男5人と犬１匹で北海道十勝川をカヌーで川下りをする。作者の息子「岳」と犬の「ガク」との心温まるお話。

岳の成長について，子どもが成長するのは良いことだと思いますが，その過程で親と話す時の態度などが変わると親側からは寂しいかもしれませんが，岳目線で見て少し気まずいと感じることもあると思いました。それは，その時期が私にもあったからだと思います。この本を読んで，その時は申し訳なかったなと思いました。思春期の少年の成長を見る物語で良いなと思いました。

*心に響いた（残った）一文　男は安心したり，満足していると黙ってしまうものですよ。*５４ＨＲ女子

十勝川をカヌーで下るお話を読んで，自然って良いなと思いました。岳も椎名さんも大きな自然の中で仲間と協力しながら成長していて，自然と仲間は自分を成長させてくれるものなんだなと思いました。椎名さんとガクが離れた時，ガクは帰ってこられるのかとても心配になったけれど，ガクも色々考えているし，色々な体験をして学んでいるんだなと思いました。この話を読んで，久しぶりに外で思いっきり遊びたいと思いました。

心に響いた（残った）一文　いまの世の中は犬にも人間にも“自由の代償”っていうのはやたらに重くなっているわけなんですね、きっと。　　５４ＨＲ　女子